

今年も「太陽の瞳」の出来は上々です！

静内そ菜振興会ミニトマト部会青空視察研修実施

静内そ菜振興会ミニトマト部会
(部会長 中道雅則 部会員37名)
では、5月25日に今年2回目となる
青空視察研修を実施しました。

本研修は、ブランドミニトマト
「太陽の瞳」が出荷を迎える直前の
4月、そして、5月の毎年2回実施
しているものであり、「太陽の瞳」
の品質向上、ブランド力強化を図る
ことを目的としています。

また、今回のように5月に実施さ
れる研修では、道内外から多くの市
場関係者が参加して行われており、
今回の研修にも道内4市場に加え、



今年の玉の出来を確認中です。

道外からは、東京都から2市場、愛
知県から2市場、岐阜県から1市場
大阪府から1市場、京都府から1市
場の合わせて11市場の関係者が参加
し、今まで以上に「太陽の瞳」をP
Rすることが出来る大変貴重な場と
なりました。

今年は、促成栽培の苗を定植した
3月に降水量が少なく、大気と土壌
が、非常に乾燥した状態にあったた
め、例年と比較して、玉の肥大が遅
れるのではないかと懸念もあり
ましたが、前回4月の研修で、視察
を行ったどの圃場も温度・湿度とも



色、ツヤ、張りどれも上々の出来です。



前日には選果場開きも行われました。

に良好な状態が保たれており、その
影響を受けていないことが確認され
ていました。

本研修で、視察を行った東別地区
の有田英二氏圃場、神垣進氏圃場、
そして、本沢地区の中道雅則氏圃場
でも3月の乾燥の影響はなく、玉の
大きさに加え、ツヤや張り、色味な
ど上々の出来であることが確認され
ました。

昨年は、異常気象の影響を受け、
ミニトマトが全国的な不作だったこ
とから市場価格が高騰し、同部会
では、過去最高となる販売金額6億8
000万円を達成。今年も前年の販
売価格を上回るべく、まずは順調な
滑り出しとなりました。

また、6月7日には、日高農業改

良普及センターの協力を得て、「
太陽の瞳」の果実内部品質調査を
実施しました。

本調査は、出荷期間中の春・夏
・秋の年3回、食味を左右する糖
度と酸度に加えて、ビタミンC含
有量を調査しています。

生産者ごとに各成分の分析、そ
して、季節ごとの差違を比較する
ことにより、来年度以降の営農活
動の指針として活用してもらい、
年間を通じての食味の平準化を目
標としています。

このような取り組みは、栽培技
術や品質の向上に繋がり、やがて
は「太陽の瞳」のブランド力をよ
り高めていくことへと発展してい
きます。



正確な調査結果得るために一つ一つの工程を慎重に行っています。